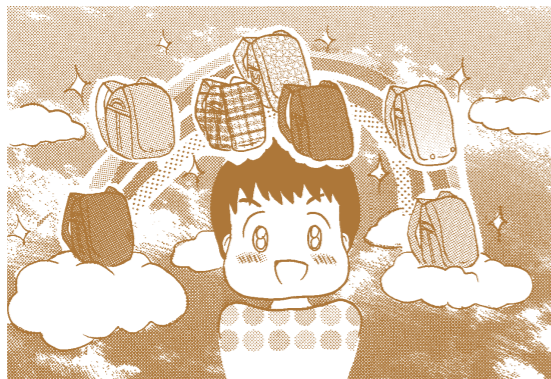


×「男らしさ」「女らしさ」 ○「自分らしさ」を伸ばす教育を

右ページのユウタくんの物語を読んでどう思いましたか？色に限らず、「男らしさ」「女らしさ」を決め付けることは、その子が本来持っている大切な個性をつぶしてしまうことにつながりかねません。「自分らしさ」を認めてもらえた人は、きっと周囲の多様性も否定せずに受け入れることができるようになるでしょう。子どもたちの未来は社会の未来なのです。

「こんな場面ありませんか？」

「男の子は黒、女の子は赤」??



近年はランドセルのカラーバリエーションが拡大しています。大手教育関係企業の調査によると、男の子の人気の色は1位が「黒系」、2位が「青系」。女の子は「赤系」「ピンク系」が人気でした。しかしこの次に人気だった色は男女ともに「パープル」や「茶色」、そして男の子は「赤系」「ピンク系」も人気という結果が出ています。

ずらりと並んだ色とりどりのランドセルの前に、大人だったらあれこれ考えて悩んでしまいがちですが、先入観のない子どもは案外自分の好きな色をすぐに選ぶかもしれません。素直な心で子どもが選んだ色について、あなたは何を言ってあげますか？

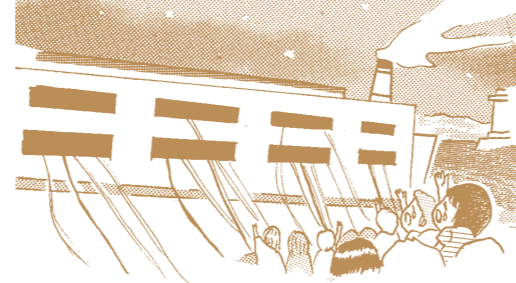
VOICE / 奄美市民からの声

名簿を「男子から」ではなく、混合名簿にするなど、大人も子供も身近で小さなことからでも取り組みたら（50代女性）／社会的に自分の個性と能力を知ることからはじまり、伸ばしていくための教育・研修が大事（60代男性）／「娘は家事をやって当たり前」ということにうんざり。しかも自分たちの年代にもその考えはしっかりと受け継がれてしまっている（30代女性）／大人になってからいくら研修やセミナーをしてもあまり意味がない。幼少のころからの教育が大切だと思う（30代女性）／混合名簿だと名前を見ただけでは判別がつかないこともあるし、臨機応変に使い分けたいと思います。

※H29年奄美市男女共同参画に関する市民意識調査、平成30年ホッペを教えてくださいWEBアンケート(しーま)より

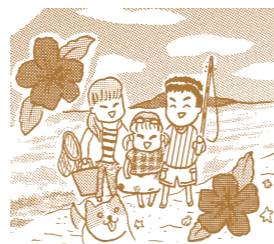
「女の子なんだからお手伝いしてね」

料理や洗濯、掃除などは男女問わずに誰もができる作業。いまは家庭科も男女共修で、性の区別なく学んでいます。奄美では高校卒業と同時に島を離れ、一人暮らしをするケースがほとんど。小さいうちからお手伝いをして家事を身につけておけば、将来的にも安心して島外へ送り出すことができるはずです。



「みんなと違うからおかしい」

周囲と違うということは、それはその子の個性。苦手なことへの努力や協調性を培うことはまた別の視点で、個性＝自分らしさを大切にするのできる教育・社会であってほしいと思います。



chapter 4. -学校編-

「男らしく」「女らしく」の刷り込みは、いつから行われるのでしょうか。それは幼少期のころから、周囲の大人によってすでに始まっているかもしれません。子どもたちの未来は社会の未来。いま自分たちが子どもたちにできることを考えたいと思います。

男らしさ女らしさの押し付け?



(漫画：あかり)